

一般質問

Q 下水汚泥問題の対処方針は

A 全量場外搬出が基本である

問

下水汚泥が現在、2万2千ト強、蓄積されている。周辺住民の日常生活はもとより果物、野菜等生産に健康的、精神的被害を被っている。町長は基本的な対策をどう考えているか。

町長

私も浄化センターのすぐ近くに住んでいることから、状況は十二分に理解し

ている。また、昭和60年の環境保全協定書のとおり、汚泥は全量場外搬出が基本であり、

当時の地権者会の諸先輩や地域住民と全く同じ意見である。今後は環境を守る会と十分連携を図り1日でも1時間でも早く汚泥の全量撤去が実現できるように全力を尽くす。

スクールバス 運行の安全確保

問

スクールバス運行を桑折町の会社に委託している。町が主導的役割を果たしバス会社を設立することも町活性化になると思うが。

町長

運行委託の条件を満たすメール観光に委託をした。当面は、現行体制で運行を行っていく。

問

子供たちが安全に利用でき



スクールバスで登校する国見小の子どもたち

る送迎集会場所までの歩道の整備やスクールバスの安全運行を確保するために交差点の隅切り等安全対策を早急にすべきでないか。

次長

小学校新設開校準備委員会でスクールバスのコースや停留所の選定をした。町ではその選定に基づき安全対策上必要な所は対応した。更に小学校にある安全対策委員会でコースの見直しを

実施している。今後ともスクールバスの安全運行に努めていく。

まちなかタクシー 土曜日も運行を

問

商工会で運行しているまちなかタクシーが高齢者の方々に大変便利な交通手段として喜ばれてい

る。しかし運行は平日のみで土曜日の運行を望む声があるが。

企画情報 課長

運行日の拡大は民間事業者の経営を圧迫するおそれがあり、難しいのではないかと。引き続き、まちなかタクシー運行委員会で検討をしていく。



まちなかタクシー（藤田病院前）



井砂善榮議員



渡辺勝弘議員

Q 仮置き場を どう確保するのか

と多くの接点を持つて対応すれば時間はかかるが、仮置き場の設置などについて自分自身の問題として理解を得られるのではないかと。みんなで同じ方向に向かって仮置き場をつくり除染をしようという、「オール国見」を基に町民一体の体制づくりで年明けから精力的に対応していく。

A 町民が一体となった 体制づくりを進める

問 町民の中には、早く除染を進めるべきという意見と除染の効果が出ないから、やらなくても良いという意見がある。町長は除染の必要性をどのように考えているか。

染対策の必要性を痛切に感じている。町民の安全安心の確保のため全力を傾注して取り組んでいく。

問 除染を進めるには仮置き場の確保が課題である。どのように進めるのか。

町長 今回の震災がなれば町長選に立候補していなかった。復旧・復興の中でも除

大震災という非常事態には町民

問 実際に除染した物質を一時保管している場所を示して、町民に仮置き場は絶対に安全である、と説明できる場所が必要ではないか。

町長 実態のものを造ることは当然必要であると思っている。

大震災の記憶を 風化させるな

問 今後更にボランティア活動者への対応を迅速にするため、専属部署の設立の必要性があるのではないか。

課長 災害発生時のボランティアへの対応は、防災計画で町社会福祉協議会が運営するボランティアセンターで受付、調整等を行うことに、また、町は災害対策本部の中にボランティア活動に関する情報収集・提供の窓口を設けるなど、情報提供に努めることとしている。

今後とも災害が発生した際のボランティアへの対応は町災害対策本部を中心に町社会福祉協議会と連携し、取り組んでいく。

問 大震災の記憶を風化させてはならないし、後世に語り続ける事が必要である。新潟県小千谷市には新潟中越大震災を学ぶ防災学習館がある。施設を造れとは言わないが、写真などを展示することを考えて

町長 この施設の問題より、まずは、ボランティアを含め震災対応を検証するための検討委員会を立ち上げ、十分議論すべきであると考えている。



観月台文化センターの除染(芝の深刈り)